

75年の歴史を過ぎて

石川県サッカー協会は1946年11月に創立され、今年2021年に創立75周年を迎えました。この節目を祝うべく周年事業として記念講演会、記念式典、祝賀会、記念誌発刊を計画していましたが、安全安心を念頭に、計画を修正して本日を迎えることとなりました。

記念講演会では、岡田武史様より、数多くの貴重なご経験を基に、スポーツを通じた地域創生、活性化、まちづくりを考える貴重なご講演をいただきました。記念式典では主に50周年からの歴史を振り返り、石川県協会の発展に貢献された個人、団体を表彰させていただきました。本当にありがとうございました。まだまだ存じあげないことも多々あると思いますが、多くの方々に支えられて今日の石川県サッカー協会があると思っています。心より感謝申し上げます。

コロナ感染症との戦いでは、世界中で生命、健康、医療、社会、経済への影響など、未だに混沌とした状況が続いています。しかし一方で、英知を結集しコロナウイルスについては様々なことがわかってきました。日本の日常に落ち着きが戻りつつあります。サッカーをはじめスポーツを取り巻く状況も好転に向かっています。石川のサッカーも例外なくダメージを受けましたが、本年10月より主催事業を再開し、少しずつですが前に進むことができます。

コロナ禍で、生命の尊さと健康であるからこそサッカーができることを痛感しました。同時に、一人ひとりにとってのレスペクト（大切に思うこと）とは何かを真剣に考える機会になりました。大切に思うこと、それは

自分自身、家族、関わりのある人たちの生命や健康のことー

私たちを支える医療や経済、社会のこと、それを支えている人たちのことー

そしてもちろん サッカーのこと、サッカーでつながっている人たちのことー

「エンジョイ」「プレーヤーズファースト」「フェア」「チャレンジ」、そして「レスペクト」

これからの時代を担う子どもたちへ、今だからこそ伝えたい、日本サッカー協会が掲げている大切にすべき価値観の中のひとつです。

石川県サッカー協会は、1996年に創立50周年の節目を過ぎした後、JFAの指導により2004年社団法人設立、2014年一般社団法人へ移行しました。この法人化を機に、組織、財務、事業など協会運営の根幹を精査し、実践を積み重ねて現在の協会組織につながっています。

近25年の中で県代表の選手たちは、国民体育大会、全国社会人サッカー選手権大会、全国クラブチームサッカー選手権大会、全国高等学校サッカー選手権大会、全国高等学校総合体育大会、高円宮杯全日本ユースU18サッカー選手権大会、全国中学校サッカー大会、高円宮杯全日本U15サッカー選手権大会、全日本女子ジュニアユースサッカー選手権大会、全日本少年サッカー大会決勝大会、全日本女子フットサル選手権大会、全国ジュニアユースフットサル大会、全日本ユースフットサル大会、全日本U12フットサル選手権大会など、全国のステージで優勝、準優勝、3位に入賞し、足跡を残しました。県内、北信越地域での切磋琢磨のおかげです。様々なステージでの質の高いパフォーマンスは、サッカーをすること、見ること、支えることへの大きなモチベーションになります。

石川県サッカー協会は、日本サッカー協会の目指すベクトルを参考にして、普及、育成、指導、強化いずれの分野でも、各種別委員会、委員会を支えてくださる連盟などの皆様、プロリーグアカデミーなどでの横断的、縦断的な関わりに大きな期待をしています。また、1種社会人、女子種別や障害者サッカーのファミリーを広げること、シニアのエネルギーを活用させていただくことなど、夢で創造し、情熱で推し進め、思いを実現しなくてはならないことが多々あります。

石川県は、JFANews2020年1月号の47FA年頭抱負に「なぜ、そんなにサッカーなのか?」と問い、「関わっていると、いつも心が動くから」と投稿をしました。キッズからシニア、性別、年齢、様々な事情を超えて千差万別の関わり方でサッカーとつながっている、それがサッカーファミリーです。

多様な関わりでサッカーファミリーが増えていくことを願います。このサッカーファミリーの広がりが、今後のサッカーとスポーツ文化の醸成、発展に大きく寄与するものと思います。

創立75周年の節目にあたり、これまでへの感謝の気持ちを込め、10年後、20年後、そして石川県サッカー協会の次の節目創立100周年を迎える姿を思い描きながら、ご理解、ご協力、ご支援を力に変えて、みなさんと一緒にしっかりと進んでまいります。

2021年11月23日

一般社団法人 石川県サッカー協会 会長 小石一寛